

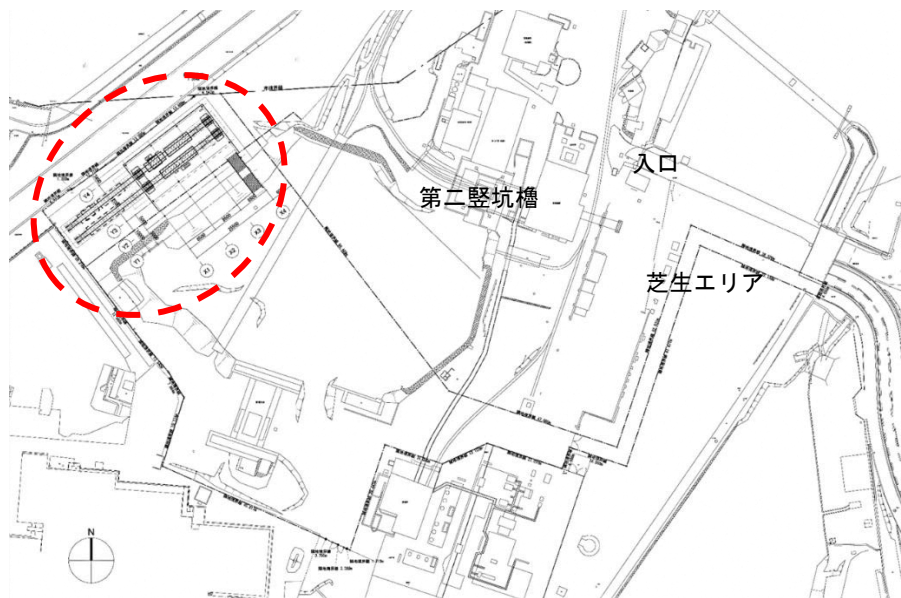
○事業の概要

総事業費：140,823,000円（予定）

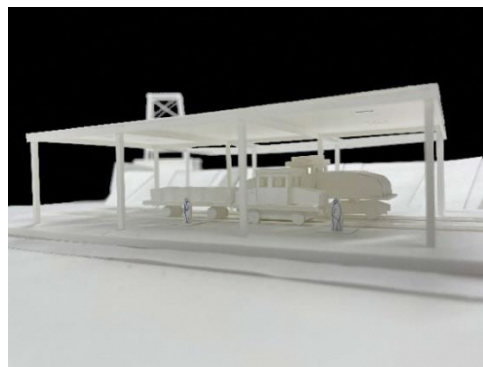
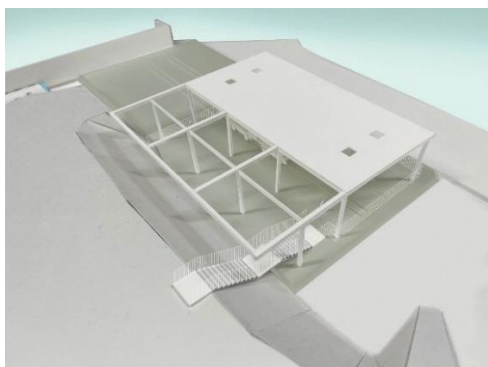
内容：展示整備、設計監理委託、炭鉱電車輸送等

現在の選炭場跡及び下段の鉄道敷には、1903（明治36）年に建設された選炭場があり（現在は無い）、大きさ毎などに分けた石炭を貨車に積み三池炭鉱専用鉄道で運んでいました。

今回の整備では、当時運行していた炭鉱電車を選炭場跡下に設置し、選炭場建物の範囲を覆屋や鉄骨で表現することで、採炭～輸送に至るまでの導線がより視覚化できます。



万田坑敷地内 炭鉱電車保存整備場所（旧選炭場下）



整備イメージ図（建屋周りに柵がつきます）



20 t 電車 12 号機（1917（大正 6）年製）



45 t 電車 18 号機（1937（昭和 12）年製）

○熊本県荒尾市の概要

荒尾市は熊本県の最北西部に位置し、福岡県大牟田市と隣接する、東西 10 km、南北 7.5 km で、面積は 57.37 km²の都市です。熊本県立自然公園に指定された小岱山や、ラムサール条約湿地に登録され渡り鳥のオアシスである荒尾干潟を有する有明海があります。また、中国の孫文の辛亥革命を支援した宮崎兄弟の生家や、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産の一つとして世界文化遺産に登録された万田坑、国指定重要無形民俗文化財の野原八幡宮風流など、自然や歴史文化が豊かなまちです。

○三池炭鉱万田坑とは…

三池炭鉱の石炭発見は 1469（文明元）年に遡る伝承があります。江戸時代には柳川藩家老の小野家が 1721（享保 6）年から、三池藩が 1853（嘉永 6）年から採掘を開始しました。明治期に入り、官営三池炭鉱から本格的な近代的採炭技術が導入され、1889（明治 22）年から三井組に払い下げられた以降は、^{だんたくま}團琢磨を指導者として経営の拡大が図られました。以後、近代技術が導入されたことで、大規模な採炭が可能となり、また、品質が高く安価であったことから、東アジア地域における海外市場を座巻しました。

しかし、昭和恐慌を契機に経営の合理化が行われ、石炭から石油へのエネルギー政策の転換の後、産炭量は次第に減少し、1997（平成 9）年 3 月の閉山に至りました。



明治 36 年の万田坑



採炭中止以降（昭和 20～30 年前半）

その後、炭坑採炭システムが多く残っていた万田坑は 1998（平成 10）年に国指定重要文化財となり、2000（平成 12）年には専用鉄道敷跡を含む敷地が国指定史跡（平成 25・26・28 年に追加指定）となりました。

また、2015（平成 27）年 7 月 8 日には、万田坑・宮原坑・三池港・専用鉄道敷跡・旧長崎税関三池税関支署は「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として、世界文化遺産に登録されました。



世界文化遺産登録決定時の様子



現在の万田坑

○炭鉱電車とは…

1997（平成9）年の閉山までの間、石炭は我が国の主要なエネルギー源として産業を支えてきました。その歴史の中で、採掘した石炭を港まで輸送するという重要な役割を担っていたのが三池炭鉱の専用鉄道です。当時は荒尾のまちなかにも支線が通っており、荒尾市民や大牟田市民を平井駅や万田駅から四山、三池港まで客車で運んでいました。

閉山後はほとんどの路線が廃止され、一部は三井化学株式会社大牟田工場の三井化学専用線において原材料の搬入等に炭鉱電車を使用していましたが、2020（令和2）年5月7日をもって廃線となりました。



三池炭鉱の主要施設とその変遷



万田坑で石炭を運ぶ様子（昭和14年頃）

（『史跡 三井三池炭鉱跡 万田坑跡 保存管理計画書』より転載）



グリーンランド前を走る様子（昭和 59 年）



四山から見た様子（昭和 50 年代か）



西原駅に停車中（昭和 59 年）



宮内駅に停車中（昭和 59 年）

○万田坑に向けて走り出す

その後、三井化学株式会社様からの寄贈の申し出に対し、炭鉱電車を本市で受け取ること
を 2021（令和 3）年 4 月 30 日に発表しました。三井化学株式会社は同年 7 月 31 日に炭鉱
電車のラストランイベントを開き、炭鉱電車は多くの人に惜しまれながらその走行を終え
ました。その炭鉱電車が、万田坑にやってきます！



当日の関係者PASS



炭鉱電車ラストランイベント（R3. 7. 31）